

1. 保育学科の教育目標

保育学科においては、多様な保育ニーズに対応できる教養と専門的な知識・技術を持った人材を育成することを教育目標としています。

2. 保育学科の学習成果

保育学科では前述の通り、「多様な保育ニーズに対応できる教養と専門的な知識・技術を持った人材育成」を目指しており、皆さんには、幼稚園教諭二種免許状と保育士資格の両方を取得することを奨励しています。

免許状・資格取得そのものを卒業要件とはしていませんが、学習成果はこれに沿って以下のよう

- に設定しています。
- (1) 幼稚園、保育所、認定こども園にかかわらず、地域社会や家庭など様々な保育ニーズに対応し、実践者として活躍できる保育者となる理論と実践を身につけている
 - (2) 学内・学外実習とその事前・事後指導を通して、子どもの発達上の諸課題の把握や子どもの生活行動を正しく把握して、保育者に必要な知識、技術、態度を修得している

3. 保育学科の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

本学は、入学希望者選考の方針に示すように創立者の信念に基づき、さらに教育課程編成の方針に示すように専門の学芸を教授し、職業又は實際生活に必要な能力を育成するとともに、地域社会の向上に寄与できる有為な人材の育成を目指しています。これを踏まえて、学則に示された所定の要件を満たした者に本学の卒業を認め、学位を授与します。

保育学科は、子育てに関する多様な変化と時代背景に対応した人材の育成を目指す学科教育に基づき、教養教育科目及び専門教育科目において指定された科目を履修し、定められた単位を修得する事が基本となります。

各科目には、科目それぞれに対応する教育目標として、知識や技能、論理的思考力、文章・身体・感性等に関する表現力、課題対処力、多様性の理解力や対人関係構築力の獲得などが設定され、単位が認定されます。

これら個々の評価を本学が定めるGPA基準により総合的な学修経験を通して修学したと学科会議で認められた者に、学長は教授会の議を経て卒業を認め、「短期大学士（保育学）」の学位を授与します。

4. 保育学科学生の努力目標

- (1) 保育学科では、「幼稚園教諭二種免許状」と「保育士資格」が取得できます。平成27年度施行の「子ども・子育て支援新制度」では、幼保連携型「認定こども園」で従事する保育教諭に対して、幼稚園教諭免許状と保育士資格の両方が求められています。従って、卒業時に両方を取得できるようにしましょう。
- (2) 保育者として望まれる諸資質、すなわち明朗、思慮深さ、思いやり、使命感、責任感、研究意欲、協調性などを身につけるようにしましょう。

- (3) 教育・保育実習は保育者になるための大切な体験です。実習とその事前・事後指導を通して、子どもの発達上の諸課題や子どもの生活行動を正しく把握して、保育者に必要な知識、技術、態度を身につけましょう。
- (4) 教育・保育に関するイベント、研修会などのボランティア活動へ積極的に参加し、子ども理解とコミュニケーション能力の向上に努めるとともに、地域社会にも貢献するようにしましょう。

5. 保育者に求められるもの

多様な保育ニーズに対応できる教養と専門的な知識・技術を持った保育者になるために、次の点が求められます。よく理解して努力しましょう。

- (1) 保育者は子どもを愛する強い信念が必要です。本学の建学の精神「真心こそすべてのすべて」に基づいた誠実さや思いやりを持つようにしましょう。
- (2) 子どもに接する保育者にとって、明るく、豊かな人間性は必要不可欠です。子どもの心にそって物事を考え対応できるようにしましょう。
- (3) 世の中の新しい動きにも関心を持ち、幅広い知識や教養を身につけ保育やその周辺領域の理解を深めるようにしましょう。
- (4) コミュニケーション能力の優れた保育者を目指しましょう。保育者は子どもの思いを大切にしながら、同僚や保護者とも良好な関係作りが必要です。
- (5) 子ども自身の事柄ばかりではなく、保護者の要望や地域社会の要請など、現場では様々な問題や課題が生じます。どのような場面でも、ゆとりを持って対応できる強くてしなやかな「心」を持った保育者を目指しましょう。
- (6) 保育現場は日進月歩でマンネリ化は許されません。常に探究心を持ち、授業などで疑問に思ったことは積極的に質問したり調べたりしましょう。
- (7) 自分の人間力を向上させるため進学も視野に入れましょう。卒業後は、本学福祉学部への進学も検討しましょう。

「保育者」

保育者（ほいくしゃ）とは、乳幼児、児童の教育・保育に直接かかわっている、保育士・幼稚園教諭・保育教諭の総称として理解され、それぞれを示す言葉ではありません。

6. 科目履修生・研究生・特別聴講学生

(1) 科目履修生について

正規に在学している皆さんに直接関係はありませんが、本学ではさらに学問の門戸を開くために、学則第54条に明記してあるように科目履修生の制度を設けております。

これは在学生以外で、本学への入学資格を持っている方が、本学において開講している授業科目の履修を希望する場合は、本学の教育に支障のない限り、選考のうえ希望科目の履修を許可する制度です。

履修期間は、許可された科目の開講期間ですが、履修を終了した場合には履修証明書または単位取得証明書を授与いたします。

詳しくは担当教員または教務課にお尋ねください。

(2) 研究生について

大学または短期大学を卒業した方、もしくはこれと同等以上の学力があると認められた方が対象となります。

本学教員を指導教員として、さらに研究を深めたいと希望する方には、本学の教育に支障がない限りにおいて、選考のうえ研究生として許可しています。

研究期間は研究生として許可された年度内が原則ですが、引き続き研究を希望する場合は、通算2年まで延長することができます。詳しくは担当教員または教務課にお尋ねください。

(3) 特別聴講学生について

本学では、平成11年度（1999年度）に福島大学と単位互換に関する協定を締結し、特別聴講学生の制度を始めました。さらに平成16年度（2004年度）からは、アカデミア・コンソーシアムふくしま（旧・福島県高等教育協議会）加盟大学・短期大学間で単位互換の協定が結ばれ、受講できる授業科目も拡大されました。

単位互換とは、本学に在籍する学生が、他大学において開講される科目（単位互換協定にある科目）を受講し、単位を認定された際に、本学の卒業要件となる単位として認定するものです。

他大学での開講科目等、詳しくは担当教員または教務課にお尋ねください。

7. 学生の表彰

保育学科では、学業成績が優秀かつ人格に優れ、他者の模範となるような学生に対して、各種表彰を行っています。

在学中、学業に努力し、授業以外の活動にも積極的に参加し、他者の模範となることは、並大抵のことではありません。そのような学生は、必ずその成果が学業成績にも、また人間的な成長にもみられます。本人にとっては社会に出てからの励みにもなり、自信にもつながると思います。他者と共に、人間が努力することの尊さを認めあうという点からも意義あるものと考えています。

選考の基準は、かなり厳しいものとなっています。例えば、各種学外実習の評価も基準の大きな要素になっているからです。学内だけではなく、学外実習における評価が含まれることは意味のあることと考えます。毎年数人の学生がその対象者となり、表彰できることは学科の誇りです。なお、学内の表彰の他に「全国保育士養成協議会会長表彰」があります。

(1) 短期大学部学長賞の授与

短期大学部学長賞の選考基準は、次に該当する学生を対象として、教授会において審査され、学長が決定します。

1. 学業成績が優良で、人格に優れている者
2. 学外実習において、特に高い成績評価を得た者
3. 学生の課外活動もしくは学内の自主的活動において特に優れた実績をあげた者
4. 学外活動もしくはボランティア活動において特に優れた実績をあげた者
5. その他学生の模範となる顕著な行為のあった者

(2) 保育学科長賞の授与

保育学科では、学業成績が優秀かつ人格に優れ、他者の模範となる学生に対して、保育学科長賞を授与しています。学科会議で審議され学長の承認のもとに保育学科長が決定します。

1. 学業成績が特に優秀な者
2. 学外実習において特に優秀な評価を得た者
3. 課外活動（学友会、学科学友会、クラブ、クラス、ボランティア活動等）において、よくその職責もしくは活動を遂行した者

(3) 千葉記念賞の授与

千葉記念賞とは、学生部長、保育科（現保育学科）長等を歴任し、本学の発展に大きな功績を残した故千葉恭造副学長（理事）を記念して制定された賞です。

保育学科では、教育実習、保育実習において特に優れた評価を得た学生等に授与しています。

8. 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

本学は、感銘と感動を与え、知的好奇心を喚起する授業の実施を目指すとともに、自らの人生を創造的に生きようとする学生への支援を理念とし、学院創立者の信念である「真心こそすべてのすべて」という建学の精神に基づき、Sincerity（真心）とHospitality（思いやり）を教育の根本におき、広く知識を授けるとともに、専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的および応用的能力を展開させ、地域社会に積極的かつ実践的に貢献することを人材育成の基本的精神としています。

本学は地域社会に根ざし、広く地域の各分野に貢献できる人材育成を目指しています。教養教育科目と専門教育科目からなる体系的な教育課程を編成し、職業又は實際生活に必要な知識と技術を培うための実践的な科目を設定しています。

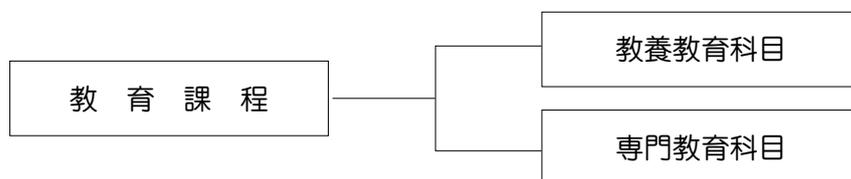
保育学科の専門教育科目は、子育てに関する多様な変化と時代背景に対応した人材の育成を目指し、多様なニーズに対応できる専門的な知識・技術を持った人材の育成を図るための科目を設定しています。

専門教育科目の学びを通し、教育・保育に関する専門職として必要な知識や技能を修得し、さらに子どもの育ちに対する深い洞察力をもって、一人ひとりの特性に柔軟に対応した教育・保育の実践を担う人材の育成ができるよう、教育課程を編成しています。

なお、「教員免許課程」および「指定保育士養成」に基づく教育課程を履修し、単位を修得した者に幼稚園教諭二種免許状、保育士資格が取得できるよう教育課程を編成しています。

(1) 教育課程編成の基本的な考え方

保育学科で開設されている授業科目は、「教育課程表」（別表）の通りです。教育課程は、教養教育科目と専門教育科目に大別されています。



(2) 教養教育科目の教育課程編成方針 * 2019年度入学生から適用

教養教育科目は、次の6つの科目分野に分かれています。

教育方針

「本学の教育」は、本学学生として、建学の精神、教育理念、および特色ある教育について理解し、実践することを共に考える科目です。そして、建学の精神の高揚に努め、学生生活の充実を図るとともに、社会的貢献について考えることができる人材育成を目標としています。

表現力向上分野

教養ある社会人として、最低限身につけておかなければならない基礎知識は数多くありますが、本学では、明快適切な自己表現によって、より良い人間関係を作り上げていくことを教養教育の基本としています。特に正しい文字言語と音声言語の修得を基本とした、豊かな国語力は必要なものとして重視しています。

本来、国語力を身につけるには、“より多く読み、より多く聴き、より多く書き、より多く話す”ことが最良の方法であると言われていますが、これには多くの時間が必要です。

しかし、漢字・成語などの読み書き、意味の理解の基本的なものに限定すれば、比較的短期に修得が可能と思われます。話す・書くについても、生活のさまざまな具体的な場面に即した実践的方法を身につけることによって、表現力の向上を図ることができます。

保育学科では、文章並びに会話による表現力の修得を目的とした「文章表現」（4単位）と「会話演習」*対話及びプレゼンテーションを含む。（2単位）を必修科目として開設しています。

なお、「文章表現」の担当者から「書写演習」の受講を指定された学生は、「書写演習」は必修科目となります。その授業を必ず履修して単位を取得するようにしてください。

*「書写演習」…悪筆（くせ字など）で矯正が必要であると判断された学生が受講を指定されます。

情報教育分野

現代の情報ネットワーク社会を支える IT（情報技術）活用に不可欠な、パーソナルコンピュータやコンピュータネットワーク活用の実践的知識とスキルを、保育・教育の現場での実践を意識した演習課題を通して身につける科目です。

保育学科では、入学時の学生の情報機器操作スキルに格差がある現況から、学生の能力に応じた授業が展開できるよう、次のようなレベル別授業を展開しています。

なお、履修レベルは、入学前研修会、およびオリエンテーション時の課題作成など、スキル状況を確認して決定します。

| | | |
|-----------|---------|----------|
| 「情報機器操作Ⅰ」 | 初級レベル | } 選択必修科目 |
| 「情報機器操作Ⅱ」 | 中級レベル | |
| 「情報機器操作Ⅲ」 | 中級習熟レベル | |

※初級レベルの履修者は、中級レベルまで、計4単位以上を必修としています。

その他、本学の特色ある科目として「スマートフォン活用法」、「スマートフォンのモラルとリスク」、「ウェブ動画制作」の3科目を選択科目として開設しています。

現代教養分野

現代社会において、大学生の一般的なマナーの悪さがよく取り沙汰されています。大学在学中、学外実習や就職活動の際も実習先や求人先から、マナーの欠如が指摘されます。そこで、「生活教養」の必修科目を設け、人間関係を円滑に図るためのマナー教育（冠婚葬祭の基礎知識を含む）を必修科目として位置づけています。

また、教養を兼ね備えた保育者になるためには、一般的な幅広い教養「音楽」「美術」「文学」などに親しみ、学びを深めることも重要です。これらの科目は選択科目ですが、保育者を目指す学生にとって興味を持って受講ができるように、そして専門教育にも繋がるような授業内容としています。

「音楽演習」

音楽に親しみ、音楽を通して歌や踊りで自己を表現し、演じることを楽しみながら豊かな情操と磨かれた感性を養う科目。

「美術演習」

造形遊びなどの様々な今日的表現を通して、ものを作り出す喜びを味わい、季節感を取り入れた作品制作の中で自然に親しみ、保育者としての美的感性を豊かにする科目。

「文学演習」

児童文学を取り上げ、子どもの年齢や発達に合わせたお話の選び方などを学び、子どもの夢や想像力を育む教材としてのお話の魅力を修得する科目。

その他の選択科目としては、国際情勢に関することはもちろんのこと、国内の社会情勢についても学ぶ「テレビ報道に見る現代理解」、それぞれの時代にあったテーマ（メンタルヘルス、コミュニケーション論など）を設定して学ぶ「教養演習Ⅰ」と「教養演習Ⅱ」、「日本国憲法」（幼稚園教諭免許状必修科目）では、日本国憲法の基本理念・基本構造や教育を受ける権利、児童の権利擁護なども学ぶ内容としています。

国際理解分野

国際理解分野は、国際理解教育と語学教育で構成しています。

<国際理解教育>

本学の「教育の理念」にも掲げている『国際的な視野に立ち、相手のことを理解し、相互理解の心を持つひとを育てます』を具現化する科目です。

「国際理解演習」では、本学で企画する海外研修旅行に参加し、各自の研究テーマに沿った事前学習や現地での体験、研修後のレポート作成を通して、諸外国の社会や異文化への理解を深める内容としています。

<語学教育>

国際事情や諸外国の文化を理解し、国際的な視野を形成する上で、その基礎となる英会話を修得する科目です。国際化の時代、教育・保育施設においても、外国人の子どもたちが幼稚園、保育所などに在籍し、その保護者と関わることが多くなってきています。

そこで、「英会話」は、日常的な事柄を英語で聞き、話すことができる能力を身につけるため、英語の発音、リスニングに重点を置きます。基礎的な語彙力、構文を修得し、通常会話での基本的なコミュニケーションができることを目的としています。

なお、入学時の学生の英語力に格差がある現況から、学生の能力に応じた授業が展開できるよう、「英会話Ⅰ」（ベーシックレベル）と「英会話Ⅱ」（アドバンスレベル）のレベル別授業を実施します。

体育分野

保育・教育者は、活動的な子どもたちと共に行動をする仕事です。常日頃から、体力の維持と健康管理は極めて重要です。

「体育講義」では、日常生活における心身の健康の確立について、特に運動やスポーツの持つ現代的な意味や役割、可能性を探り、学生が生涯にわたり健康なライフスタイルを創造するために必要な知識について学びます。

「体育実技」では、学生が生涯継続してスポーツに親しむ技術と習慣を身につけ、健康・体力づくりの実践力向上を目標とし、完全種目選択制を導入します。種目数は5種目（バレーボール・バドミントン・バスケットボール・卓球・レクリエーションスポーツ）に厳選して開講します。

(3) 専門教育科目の教育課程編成方針 *2019年度入学生から適用

2019年度からの幼稚園教諭免許状に関する科目区分は、教科の専門的内容と指導法を一体的に学ぶことを可能とした、次の5項目の区分となりました。

- 「領域及び保育内容の指導法に関する科目」
- 「教育の基礎的理解に関する科目」
- 「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」
- 「教育実践に関する科目」
- 「大学が独自に設定する科目」

また、保育士資格に関する科目区分も、2019年度から次の5系列で構成されるようになりました。

- 「保育の本質・目的に関する科目」
- 「保育の対象の理解に関する科目」
- 「保育の内容・方法に関する科目」
- 「保育実習」
- 「総合演習」

保育学科では、理論と実践の両面から、多彩な科目を系統的に学び、幼稚園教諭や保育士などに必要な知識・技能、多面的素養を培っていきます。

1) 幼稚園教諭免許状取得にかかわる教育課程（指定科目）について

(1) 「領域及び保育内容の指導法に関する科目」（幼二種：12単位）

イ 領域に関する専門的事項（6単位）

- 「幼児と健康」 (演習：1単位)
- 「幼児と人間関係」 (演習：1単位)
- 「幼児と環境」 (演習：1単位)
- 「幼児と言葉」 (演習：1単位)
- 「幼児と表現（造形）」 (演習：1単位)
- 「幼児と表現（音楽）」 (演習：1単位)

ロ 保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む）（6単位）

- 「保育内容総論」 (演習：1単位)
- 「保育内容指導法 健康」 (演習：1単位)
- 「保育内容指導法 人間関係」 (演習：1単位)
- 「保育内容指導法 環境」 (演習：1単位)
- 「保育内容指導法 言葉」 (演習：1単位)
- 「保育内容指導法 表現」 (演習：1単位)

(2) 「教育の基礎的理解に関する科目」(幼二種：15単位)

- イ 教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 (4単位)
「教育原理」(講義：2単位) 「保育原理」(講義：2単位)
- ロ 教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む) (2単位)
「保育者論」(講義：2単位)
- ハ 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項 (2単位)
(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む)
「教育行政」(講義：2単位)
- ニ 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程 (3単位)
「教育心理学」(演習：1単位) 「発達心理学」(講義：2単位)
- ホ 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解 (2単位)
「特別支援教育」(講義：2単位)
- ヘ 教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む) (2単位)
「保育・教育課程論」(講義：2単位)

(3) 「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」

(幼二種：6単位)

- イ 教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む) (2単位)
「教育方法及び技術」(演習：2単位)
- ロ 幼児理解の理論及び方法 (2単位)
「幼児理解の理論及び方法」(演習：2単位)
- ハ 教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む)の理論及び方法 (2単位)
「教育相談の理論及び方法」(演習：2単位)

(4) 「教育実践に関する科目」(幼二種：7単位)

- イ 教育実習 (5単位)
「教育実習」(実習：5単位) ※事前・事後指導1単位を含む
- ロ 教職実践演習 (2単位)
「保育・教職実践演習(幼稚園)」(演習：2単位)

(5) 「大学が独自に設定する科目」(幼二種：開設科目なし)

幼稚園教諭二種免許状取得に必要な最低単位数は、(1)～(5)の科目区分の単位数を合計して31単位です。

保育学科は、この区分を除く(1)～(4)の科目区分の単位数だけで、40単位分を開設しています。単位数が充足されていることから、(5)の科目区分には授業科目を設定していません。

2) 保育士資格取得にかかわる教育課程（指定科目）について

| | |
|--|-----------------------|
| (1) 「保育の本質・目的に関する科目」(保育士：14単位) | |
| 「教育原理」(講義：2単位) | 「子ども家庭支援論」(講義：2単位) |
| 「保育原理」(講義：2単位) | 「子ども家庭福祉」(講義：2単位) |
| 「保育者論」(講義：2単位) | 「社会的養護Ⅰ」(講義：2単位) |
| 「社会福祉」(講義：2単位) | |
| <選択科目> 「教育行政」(講義：2単位) | |
| (2) 「保育の対象の理解に関する科目」(保育士：10単位) | |
| 「発達心理学」(講義：2単位) | 「幼児理解の理論及び方法」(演習：2単位) |
| 「子どもの保健」(講義：2単位) | 「子どもの食と栄養」(演習：2単位) |
| 「子ども家庭支援の心理学」(講義：2単位) | |
| <選択科目> 「教育心理学」(演習：1単位) 「特別支援教育」(講義：2単位) | |
| 「臨床心理学Ⅰ」(講義：2単位) 「臨床心理学Ⅱ」(講義：2単位) | |
| (3) 「保育の内容・方法に関する科目」(保育士：22単位) | |
| 「幼児と健康」(演習：1単位) | 「幼児と人間関係」(演習：1単位) |
| 「幼児と環境」(演習：1単位) | 「幼児と言葉」(演習：1単位) |
| 「幼児と表現(造形)」(演習：1単位) | 「幼児と表現(音楽)」(演習：1単位) |
| 「保育・教育課程論」(講義：2単位) | 「保育内容総論」(演習：1単位) |
| 「保育内容指導法 健康」(演習：1単位) | 「保育内容指導法 環境」(演習：1単位) |
| 「保育内容指導法 言葉」(演習：1単位) | 「保育内容指導法 表現」(演習：1単位) |
| 「保育内容指導法 人間関係」(演習：1単位) | |
| 「乳児保育Ⅰ」(講義：2単位) | 「乳児保育Ⅱ」(演習：1単位) |
| 「子どもの健康と安全」(演習：1単位) | 「障害児保育」(演習：2単位) |
| 「社会的養護Ⅱ」(演習：1単位) | 「子育て支援」(演習：1単位) |
| <選択科目> | |
| 「教育方法及び技術」(演習：2単位) | 「教育相談の理論及び方法」(演習：2単位) |
| 「ピアノ演習Ⅰ」(演習：2単位) | 「ギター演習」(演習：2単位) |
| (4) 「保育の本質・目的に関する科目」(保育士：2単位) | |
| 「保育・教職実践演習(幼稚園)」(演習：2単位) | |
| (5) 「保育実習」(保育士：9単位) | |
| 「保育実習指導Ⅰ」(演習：2単位) 「保育実習Ⅰ」(実習：4単位) | |
| <選択必修科目> 「保育実習指導Ⅱ」(演習：1単位) 「保育実習Ⅱ」(実習：2単位) | |
| もしくは「保育実習指導Ⅲ」(演習：1単位) 「保育実習Ⅲ」(実習：2単位) | |

3) 保育学科独自の選択科目について

幼稚園教諭免許状、保育士資格取得に関わる科目の他に、保育学科の特色ある専門教育科目として、実践的な知識・技術力を修得することを目的に、次の6科目を設定しています。

「臨床心理学Ⅰ」

臨床心理学における様々な援助理論とその技法に関して基礎的な知識を理解します。また、代表的な症状に対するアプローチについても学びます。

「臨床心理学Ⅱ」

臨床心理学Ⅰでは触れることが出来なかった他の症状に関して具体的な事例を通して学びます。また、臨床心理学の活躍領域や、子どもの問題についても事例を通して学び、理解を深めていきます。

「創作ミュージカル」

総合芸術であるミュージカルを作り上げ、その成果を舞台上で表現（発表）します。現代社会に必要とされるコミュニケーション能力や自己表現力を高めることも目的の一つとなっています。

「バリダンスレッスンとバリ島幼稚園交流」

本学認定こども園の姉妹園でもあるインドネシアバリ島のハラパン幼稚園を訪問し、幼児教育の実際を現地で学びます。また、バリ島での異文化体験をすることにより、自国の文化との比較研究を行います。

「特別研究Ⅰ」（2講座）

『子どもと園芸』

幼稚園や児童福祉施設などで役立つ野菜栽培や草花を育てるなどの園芸活動を体験的に学習します。

『障害児生活支援演習』

身体的に障害のある児童の日常生活を支援するための基本的な「食事・入浴・排泄」を中心とした技術を修得します。さらに、車椅子介助の基本についても、実践を通して学びます。

「特別研究Ⅱ」

『保育者の音楽遊び』

保育者として必要な歌・踊りなどの音楽表現を体験し、学外実習でも実際に活用できる音楽遊びを実践的に学んでいきます。

保育学科で学ぶ「ピアノ演習」と「ギター演習」

「ピアノ演習Ⅰ」（選択必修科目）・「ピアノ演習Ⅱ」（選択科目）

- (1) 教育・保育の現場で必要となる、ピアノ演奏の基礎技能を修得します。
- (2) 幼児の歌を中心に、歌曲（童謡・あそび歌等）、練習曲（バイエル・ツェルニー等）を通して読譜力やピアノの表現力を養い、ピアノの奏法を学びます。
- (3) 各学生のピアノ演奏技術に応じて、次の4つのグレードから一つを選択します。

◆ グレードの名称と選択する際の基準

「初心者グレード」 バイエル1番～バイエル60番程度

「初級者グレード」 バイエル40番～バイエル80番程度

「中級者グレード」 バイエル終了程度からツェルニー30番、ブルグミュラー25番程度

「上級者グレード」 ツェルニー30番の10番以降、ブルグミュラー25番の10番以降程度
バッハインヴェンション二声程度、ソナチネ程度

- (4) グレードごとに課題曲を設定し、アチーブメント方式での授業を展開します。各自の課題曲を自学学習し、完成度が基準に達した課題曲ごとに、担当教員からチェック（確認テスト）を受けます。各グレードの課題曲数は以下の通りです。

◆ 各グレードの課題曲数

「初心者グレード」 28曲（練習曲8曲 + 歌曲20曲）

「初級者グレード」 35曲（練習曲11曲 + 歌曲24曲）

「中級者グレード」 42曲（練習曲11曲 + 歌曲31曲）

「上級者グレード」 47曲（練習曲8曲 + 歌曲39曲）

- (5) 年度途中で、選択したグレードの課題曲を終了した場合は、次のグレードへ順次、移行することができます。ただし、上級者グレードの学生は、そのグレードに応じた新たな課題曲に取り組み、高得点取得を目指します。

「ギター演習」（選択必修科目）

ピアノ以外の楽器で、ギターを履修したい学生を対象に授業を開設しています。

ただし、履修者7名以上で開講します。授業で使用する練習用ギターは各自で準備していただきます。

- ※1. 「ピアノ演習Ⅰ」または「ギター演習」のいずれかの単位を取得しないと、「教育実習」を実施することはできません。
- ※2. 「ピアノ演習Ⅰ」と「ギター演習」のどちらも学びたい方は履修することは可能です。授業担当者にご相談ください。

9. 履修と免許状・資格の取得

(1) 単位制と履修方法について

授業科目は、教育課程表にまとめられています。この中から卒業、幼稚園教諭二種免許状、保育士資格を取得するために必要な科目と単位数を確認して、履修する授業科目を決めていきます。

- ① 単位とは学習時間を表したものであって、ある科目について所要の時間数を履修し、その試験に合格したとき、あるいは授業科目担当者がその科目を履修したことを認定した時に単位を取得したことになります。
- ② 学習時間は年間を前期（4月1日～9月30日）と後期（10月1日～3月31日）の2期に分け、1期15週とします。授業科目によっては前後各1期で完結する「半期科目」と、1か年（通年）30週で完結する「通年科目」があります。
- ③ 単位の計算方法は「短大設置基準」に基づいて本学学則に定められています。各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間以外に必要な学修を考慮して、次の基準により計算します。

- 講義および演習については、15時間から30時間の範囲で、本学が定める時間の授業をもって1単位とします。
- 実験・実習および実技については、30時間から45時間の範囲で、本学が定める時間の授業をもって1単位とします。
- 授業時間は2時間連続（正味90分）を1時限としておりますので、各時限を2時間として単位の計算をします。

なお、本学宮代キャンパスの授業時間割は次の通りです。

授業時間割

| 時 限 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
|-----|----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|
| 時 間 | 8：50～ 10：20 | 10：30～ 12：00 | 12：50～ 14：20 | 14：30～ 16：00 | 16：10～ 17：40 | 17：50～ 19：20 |

④ 授業科目の種類

保育学科に開設されている科目は、「必修科目」「選択必修科目」「選択科目」に大別されます。

必修科目

卒業必修科目

保育学科を卒業するために、必ず取得しなければならない科目

資格・免許状取得のための必修科目

保育士資格、幼稚園教諭二種免許状を取得するために、必ず取得しなければならない科目

選択必修科目

卒業選択必修科目

保育学科を卒業するために、どちらかを選択して必ず取得しなければならない科目（例：英会話Ⅰまたは英会話Ⅱ。ピアノ演習Ⅰまたはギター演習）

資格取得のための選択必修科目

保育士資格を取得するために、どちらかを選択して必ず取得しなければならない科目（例：保育実習Ⅱまたは保育実習Ⅲ）

選択科目

選択科目はそれぞれが自由に選択して履修することができる科目です。

ただし、履修者数を制限している科目や、卒業は選択科目であっても、資格・免許状を取得するためには必修科目となっている科目等もありますので、授業計画、教育課程表をよくご覧の上、履修するようにしてください。

○ 履修者数を制限している科目

⇒ 美術演習（造形を楽しむ）、音楽演習（ポップスの世界） など

○ 卒業は選択科目で幼稚園免許状、もしくは保育士資格取得には必修科目となっている科目

⇒ 教育心理学、保育・教職実践演習（幼稚園） など

○ 卒業は必修科目で幼稚園免許状取得には選択科目となっている科目

⇒ 文章表現、乳児保育Ⅰ、創作ミュージカル など

(2) 免許状・資格の取得について

保育学科においては、免許状・資格に関する授業科目を履修することによって、次の免許状・資格を取得することができます。取得するためのそれぞれの最低必要単位数は表の通りです。

○ 幼稚園教諭二種免許状 ○ 保育士資格

※希望する免許状・資格取得に必要な単位数は100単位程度が適当と思われます。

なお、1年間に登録できる履修単位の上限は、おおむね55単位までとします。

最低必要単位数

| 科目名 | 卒業 | 幼稚園教諭二種 | 保育士 |
|--------|------|---------|------|
| 教養教育科目 | 17単位 | 21単位 | 19単位 |
| 専門教育科目 | 46単位 | 55単位 | 65単位 |
| 合計 | 63単位 | 76単位 | 84単位 |

さらに、保育学科では、社会福祉主事の任用資格に必要な指定科目を設置しています。

社会福祉主事とは

社会福祉主事とは社会福祉法第19条に認定されている資格です。社会福祉主事は福祉事務所で働く時に必要な資格であり、福祉事務所で「現業員」という仕事に就いたときに「社会福祉主事」と初めて名乗れるというもので、このような資格を「任用資格」と呼んでいます。

社会福祉法では指定科目を34科目規定しており、「指定科目を3科目以上履修した者」は、その単位が認定されれば、卒業と同時に「社会福祉主事任用資格」を有することになります。保育学科の指定科目は、「社会福祉」、「子ども家庭福祉」、「保育原理」、「教育原理」などです。詳しくは担当教員または教務課にお尋ねください。

(3) 履修届について

教育課程表により、卒業に必要な科目と単位、資格・免許状取得に必要な科目と単位とを兼ね合わせて、その授業科目の授業計画と時間割表を参照して、履修する科目を決めます。そして別に配布される「履修届」に記入して、指定の期日までに必ず教務課に提出してください。

① 履修科目の変更

届け出た履修科目（必修科目と学外実習科目を除く）の変更は、1回目の授業が開始された日から2週間以内であれば「履修変更届」を教務課へ提出し、他の科目への変更を行うことができます。

② 履修科目の放棄

授業科目を実際に履修してみて履修の継続が困難になった場合、必修科目を除き、その科目の授業開始日から2週間以内であれば、「履修科目放棄届」により履修を放棄することができます。

ただし、学外実習の科目を放棄する場合は、実習開始日の2週間前までに届けを出してください。

履修科目の変更・放棄をする場合は、必ずクラスアドバイザー等に相談してから、速やかに手続きをとってください。手続きがないまま欠席を続けると「欠格」になりますので注意してください。履修についての疑問や不明の点は、担当教員または教務課にお尋ねください。

(4) 成績評価と単位認定について

本学では、評価の公正化と厳格性を確保するため、「素点」と「単位数」をもとにGPA（グレード・ポイント・アベレージ：成績評定平均点）を算出する方法を取っています。

① 成績評価は、100点を満点として、60点以上を合格、59点以下を不合格とします。

成績は6段階となっており、評価点ごとの点数は次の通りです。

| | | | |
|----|-----------|---|----------|
| A+ | (100~90点) | C | (69~60点) |
| A | (89~80点) | D | (59~50点) |
| B | (79~70点) | F | (50点未満) |

※ GPAの向上のため、C以下の評価点を得た授業科目は、「再履修願」により再履修をすることができます。

② 単位の認定は、当該授業科目の担当教員が、次の条件を備えた者に対して行います。

[1] 通常の授業については、必要な時数として定められた時数の3分の2以上を出席した者

・定められた授業回数の3分の1を超える回数を欠席した場合は、期末試験への出席も認められません。そして、単位認定は行われず「欠格」となります。実習や病気などのやむを得ない場合を除き、欠席はしないようにしてください。

(遅刻や早退については、30分以上を欠席とし、30分未満の場合は、3回で1回の欠席とみなされますので、欠席回数を計算するときは、これを加えることも忘れないようにしてください)

[2] 学外実習を伴う実習科目（海外における演習・実習科目を含む）については、事前・事後指導時数の5分の4以上出席し、かつ当該現場実習において、定められた全ての日数および時数を出席した者

・5分の1を超える時数を欠席した場合、および当該現場実習において欠席した日数分の延長を行わなかったときは、当該科目が「欠格」となりますので、十分に注意してください。

[3] 海外実習（演習）を行う場合は、当該実習（演習）における所定の全プログラムに出席した者

・体調不良もしくは病気・怪我等で所定のプログラム（オプションプログラムを除く）に参加できなかった場合は、1プログラムごとに5点の減点として成績の評価を行います。

成績評価への補足的対応措置

成績評価の際、私語や欠席などに対して、以下の措置が取られ、成績評価点から減点されます。また、授業担当教員が禁止した事項等によっても、減点されることもありますので注意が必要です。

○ 授業内容に関係のない私語、授業の流れを阻害する学生の私語

- ・注意1回につき1点減点

※同一学生の注意3回以降は1回につき2点減点。そして、必要と判断した場合は履修制限に関する細則に従い、退席指示、履修取消などの措置がとられます。

○ 遅刻・早退・欠席

- ・遅刻・早退1回につき1点減点
- ・欠席1回につき3点減点

※遅刻・早退3回で1回の欠席となった場合は、その欠席分は減点されません。また、次の場合の欠席等は減点の対象から除外されます。該当したときは、各授業担当教員に事前、もしくは事後に「事由書」を文書（書式自由）で提出してください。

- ① 学内外における本学所定の実習を実施する場合（基本実習、保育実習、教育実習等）
- ② 学校保健安全法の規定に基づき、学長による出席停止の指示に従う場合
- ③ 裁判員制度による裁判員に選任された場合
- ④ 就職試験（面接を含む）を受験する場合
- ⑤ 公共交通機関の遅延や運休による場合
- ⑥ 悪天候または事故等により、やむを得ない場合
- ⑦ 親族の不幸等やむを得ない場合

○ 欠 格

定められた授業回数の3分の1を超える回数を欠席した場合は、上記、①から⑦までの場合を含めて欠格とし、期末試験への出席は認められず、単位認定は行われません。

○ 質疑応答

〈指名応答〉

- ・指名した学生が質問に適切に応答したと認めたときは、その内容の評価に応じて1回につき1～2点が加点されます。
- ・質問に不適切な応答をしたと認めたとき、または質問に答えられなかったときは、1回につき1点が減点されます。

〈自発的応答〉

- ・授業担当教員の質問に対して、自ら挙手するなど学生が自発的に適切に応答したと認めたときは、その内容の評価に応じ1回につき1～3点が加点されます。
- ・学生の自発性および授業の双方向性推進の措置として、全授業回数中、授業担当教員の質問に対し、学生が自発的応答を1回もしなかったときは、5点が減点されます。

○ 小論文（宿題）

- ・未提出の小論文1件につき2点が減点されます。
- ・授業担当教員が小論文を優良と評価したときは、小論文1件につき内容の優良さに応じて1～3点が加点されます。

○ 小テスト

授業の理解度を計る小テストについて授業担当教員が優良と認めた場合は、小テスト1件につき評価により1～3点が加点されます。

○ 期末試験としてのレポート提出を課す場合

- レポートは原則として試験期間開始前に提出します。
- 授業担当教員が指定する締め切り期限を過ぎた場合は、期限後1日（土曜、日曜、祝日を含む）あたり、2点減点とします。
- 提出がない場合のレポート評価は零点です。
- 授業担当教員が定めた場合の最低字数に不足する場合も適宜減点されます。
また、字数の上限を定めた場合で、それを超えた場合も同様です。

授業受講上の留意点

授業を受講する際の留意点は「学生受講規程」に定められています。この規程の第2条には、下記のようなマナーに反した受講態度は禁じられています。よく読んで授業に臨んでください。

- コート類、小物類（マフラー・帽子等）着用の教室入室、及び受講
- 授業の進行を妨げるような私語
- 携帯電話等の送信や交信
- 飲食や喫煙行為
- 授業担当者の意欲を阻害するマナーの悪い居眠り
- 授業に関係のない荷物（バッグ・紙袋など）を机上に置くこと
- 授業中の教室への無断入退室

(5) 進級制限について

次のいずれかに該当する者は、2年次への進級を認めないことがあります。

1年次は比較的実習や行事も少ないので、次年度以降の学外実習に向けて、勉学に励むようにしましょう。

- ① 1年次の取得単位数20単位未満の者
- ② 1年次のGPAが65点未満の者

10 教育実習・保育実習

(1) 教育実習について

教育実習は幼稚園教諭二種免許状取得のための必修科目です。履修方法は学内実習、学外実習、および実習に関する事前・事後指導（1単位）があり、単位数は5単位です。

学内実習は福島学院大学認定こども園（幼保連携型）での基本実習が1週間（1単位）、学外実習は、幼稚園または認定こども園での教育実習が3週間（3単位）です。教育実習をまとめると、表1のようになります。

表1 「教育実習」実習日数・単位

| 実習施設 | 実習日数 | 単位数 | 備 考 |
|-------------------------------|------|-----|------------------------|
| 本学認定こども園 （幼保連携型） | 1週間 | 1単位 | 幼稚園教諭二種免許状 取得希望者は必修 |
| 幼稚園 認定こども園 （幼保連携型・幼稚園型） | 3週間 | 3単位 | |

学内での実習に関する事前・事後指導（1単位）は、オリエンテーションやクラスセミナーでの実習指導、実習授業、実習反省会等で行います。

教育実習の目標

1. 幼稚園や認定こども園についてその実態を知り理解を深める。
2. 幼稚園教諭の職務や役割を体験的に理解し、責任感を喚起する。
3. 指導計画の役割について実際の保育に即して理解する。
4. 指導・援助について実践的に学ぶと共に、専門職の幼児教育に対する姿勢や考え方に触れる。
5. 幼稚園教諭としての適切な勤務態度を身につける。
6. 子どもの発達を現実に即して理解し、幼稚園教諭が担う役割について考える。
7. 幼稚園教諭に求められる適性や態度、能力等について実感を持って考え、自己を見直す。

〈基本実習の指導内容〉 ※「保育実習」の基本実習も兼ねている。

1. 保育者としての愛情と使命感を深め、自己の能力や適性について自覚する。
 - 実習の心構え（保育者の心構え）
 - 幼児教育の考え方
 - 保育者の望ましい資質
 - 実習の反省と適性への自己評価
2. 実習日誌、指導計画作成の仕方を学ぶ。
 - 実習日誌の書き方
 - 環境構成の仕方
 - 週案と日案の関係、目標の立て方
3. 観察実習・技術演習等を通じて、指導法の基礎を体験的に理解する。
 - 幼児への興味を引き出す保育方法
 - 自由遊びにおける指導法
 - 音楽を通しての幼児とのかかわり方
 - 教材研究と教材教具の準備の仕方
 - 一人ひとりの子どもの発達の特性に応じたかかわり方
 - 基本的生活習慣の指導
4. 実際に保育者と幼児のかかわりを通して幼児理解を深める。
 - 幼児の行動観察からの読み取り
 - 幼児とのかかわり方
5. 幼児教育の実践についての体験的・総合的理解と、適切な勤務態度を身につける。
 - 施設・設備とその活用
 - 園の1日・1年の生活
 - 保育者の職務内容
 - 勤務の基本マナー（勤務の在り方、服装と態度、清掃と整理整頓の仕方等）

〈教育実習の指導内容〉

1. 幼稚園教諭としての愛情と使命感を深め、自己の能力や適性について自覚する。
 - 実習の心構え（幼稚園教諭の役割）
 - 幼児教育について
 - 幼稚園教諭の望ましい資質
 - 実習の反省と自己評価
2. 参加、部分実習、全日実習等における、指導計画を作成し実践する。
 - 日案や部分的な指導案の作成の方法
 - 実践結果の反省・評価の方法
 - 反省・評価に基づく事後評価
3. 参加、部分実習、全日実習等を中心として、様々な指導方法を体験し、理解する。
 - 指導計画に基づいた保育の実践
 - 幼児の個々に応じた指導法
 - 環境構成への理解
 - 生活指導への理解
4. 幼児理解の方法について体験し、実践に生かす。
 - 観察と記録の取り方
 - 実習日誌の記録とその活用
 - 個々に応じた対応の仕方
 - 幼児の発達に応じた指導計画や指導法
5. 幼児教育の実際についての体験的、総合的に理解をする。
 - 施設・設備とその活用
 - 実習施設の教育計画
 - 保護者や地域との連携
 - 幼稚園教諭の職務内容
 - 勤務の基本マナー（勤務の在り方、服装と態度、職場内の人間関係等）

表2 『教育実習』での標準的な指導計画

| 実 習 内 容 | |
|---------|---|
| 事前 | ○実習施設を訪問し、事前打ち合わせを十分に行う （施設内外の見学、実習期間中の行事等、出勤・退勤時間の確認、服装、その他勤務上の注意点、部分実習や全日実習で準備すべきもの、ピアノの楽譜等） |
| 第一週 | ○指導講話（園長、主任、実習担当者） （オリエンテーション：設立の沿革、教育目標、特色ある教育内容、年齢・園児数・クラス編成、職員組織・構成、実習の心得等） ○観察実習（クラスでの幼児の活動、一日の生活の流れ、保育方法等） ○参加実習（保育室の環境構成、幼児への援助、教材・教具の準備、清掃、保育室の整理・整頓等） ○教育課程・指導計画の説明（実例に基づいて指導） ※施設内外の見学を第一週目を実施する場合もある |
| 第二週 | ○観察実習・参加実習 ○部分実習の指導案作成（作成についての指導） ○部分実習 ○部分実習についての反省会（反省会や研究会について） ○園長講話（幼児教育の在り方に関する話等） |
| 第三週 | ○観察実習・参加実習（第二週に同じ） ○日案の作成（実習施設の様式（指導案）による作成指導） ○全日実習の実施 ○全日実習についての反省会（保育の振り返り、課題の明確化） ○園長、主任、担任、実習担当者等との話し合い（実習のまとめ） |
| 事後 | ○実習のまとめをする ○実習施設へ礼状を出す（実習終了後、1週間以内） ○実習施設から評価が届く（実習終了後、2週間程度） |

(2) 保育実習について

[保育実習 I]

保育実習 I は保育士資格取得のための必修科目です。保育実習指導 I（2 単位）の他、保育所における実習 2 単位と、その他表 3（A）に掲げる保育所以外の施設における実習 2 単位を履修します。

保育実習 I の実施基準は以下の通りです。

表 3 『保育実習 I』実施基準（その 1）

| 実習種別 | 履 修 方 法 | | 実習施設 |
|--------|---------|-----------|------|
| | 単位数 | おおむねの実習日数 | |
| 保育実習 I | 4 単位 | 20 日 | (A) |

※実習施設の種別は、次の通りです。

(A) 保育所、幼保連携型認定こども園又は児童福祉法第 6 条の 3 第 10 項の小規模保育事業（ただし、「家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準」（平成 26 年厚生労働省令第 61 号）第 3 章第 2 節に規定する小規模保育事業 A 型及び同基準同章第 3 節に規定する小規模保育 B 型に限る）若しくは同条第 12 項の事業所内保育事業であって同法第 34 条の 15 第 1 項の事業及び同法同条第 2 項の認可を受けたもの（以下「小規模保育 A・B 型及び事業所内保育事業」という。）及び乳児院、母子生活支援施設、障害児入所支援施設、児童発達支援センター（児童発達支援及び医療型児童発達支援を行うものに限る）、障害者支援施設、指定障害福祉サービス事業所（生活介護、自立訓練、就労移行支援又は就労継続支援を行うものに限る）、児童養護施設、情緒障害児短期治療施設、児童自立支援施設、児童相談所一時保護施設又は独立行政法人国立重度知的障害者総合施設のぞみの園

以上の実施基準を別表にまとめると次のようになります。

表 4 『保育実習 I』実施基準（その 2）

| 実習種別 | 保 育 実 習 I | | |
|-------------|--------------------------|------------|------|
| | 保育士資格取得希望者は必修 | | |
| 実習施設 | 保 育 所 | おおむね 10 日間 | 2 単位 |
| 実習日数 単位数 | 保育所を除く表 3 (A) 欄に掲げる施設 | おおむね 10 日間 | 2 単位 |

表 3、表 4 に示されているのが現行の実施基準です。本学ではこの基準を踏まえて、より実習の効果をあげることを目的として、独自の方法で実施しています。

保育実習 I の履修方法は、学外実習と学内での保育実習指導 I があります。

学外実習に先立ち、児童福祉施設見学実習を 1 日間実施します。さらに、保育所実習を予定している実習先でのボランティア活動を 1 日間実施します。

また、実習の基礎を学ぶために福島学院大学認定こども園（幼保連携型）での基本実習を 1 週間実施いたします。

その後、学外実習は、児童福祉施設実習と保育所実習をおおむね 10 日間ずつ行います。

実習の実施内容は、表 5 の通りです。学内での実習に関する事前・事後指導は、教育実習同様、オリエンテーション、クラスセミナーでの実習指導、実習授業、実習反省会等で行います。実習の事前・事後指導には必ず出席しなければなりません。

表5 「保育実習Ⅰ」実施時期

| 実習施設 | 学年 | 実施時期 | 実習日数 | 備考 |
|-------------------------------|----|---------|----------------------------|----------|
| 児童福祉施設 | 1 | 9月 | 1日 | 見学実習 |
| 保育所 認定こども園 (幼保連携型・保育所型) | 1 | 7月下旬～9月 | 1日(8時間)、または 半日間(4時間)を2回 | 見学実習 |
| 児童福祉施設 (保育所を除く) | 2 | 5月 | おおむね10日間 | 児童福祉施設実習 |
| 保育所 認定こども園 (幼保連携型・保育所型) | 2 | 7月下旬～8月 | おおむね10日間 | 保育所実習 |

保育実習の目標(保育所・児童福祉施設)

1. 保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。
2. 観察や子どもとのかかわりを通して子どもへの理解を深める。
3. 既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。
4. 保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する。
5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。

[保育実習Ⅱ・保育実習Ⅲ]

保育実習Ⅱ、保育実習Ⅲは、保育士資格取得の選択必修科目です。したがって、資格を取得するためには、保育実習Ⅰのほかどちらかを選択し、履修しなければなりません。詳細は下記の通りです。なお、保育実習指導Ⅱ・保育実習指導Ⅲ(各1単位)もどちらかを履修します。授業内容は授業計画をご覧ください。

表6 「保育実習Ⅱ」「保育実習Ⅲ」実施基準・時期

| 実習種別 | 実習施設 | 単位数 | 実習日数 | 実習時期 | 備考 |
|-------|------|-----|----------|---------------------|------------------|
| 保育実習Ⅱ | (B) | 2単位 | おおむね10日間 | 8～9月、または 10月～12月 | どちらか1科目 を履修する |
| 保育実習Ⅲ | (C) | 2単位 | おおむね10日間 | 8月、または 10月～12月 | |

(B) 保育所又は幼保連携型認定こども園或いは小規模保育A・B型及び事業所内保育事業

(C) 児童厚生施設又は児童発達支援センターその他社会福祉関係諸法令の規定に基づき設置されている施設であって保育実習を行う施設として適当と認められるもの(保育所及び幼保連携型認定こども園並びに小規模保育A・B型及び事業所内保育事業は除く。)

備考

1. 保育実習Ⅰ(必修科目)4単位の履修方法は、保育所又は幼保連携型認定こども園或いは小規模保育A・B型及び事業所内保育事業における実習2単位及び(A)に掲げる保育所又は幼保連携型認定こども園或いは小規模保育A・B型及び事業所内保育事業以外の施設における実習2単位とする。
2. 児童福祉法(昭和22年法律第164号。以下「法」という。)第6条の3第9項に規定する家庭的保育事業又は、「家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準」第3章、第4節に規定する小規模保育事業C型において、家庭的保育者又は補助者として、20日以上従事している又は過去に従事していたことのある場合にあつては、当該事業に従事している又は過去に従事していたことをもって、保育実習Ⅰ(必修科目)のうち保育所又は幼保連携型認定こども園或いは小規模保育A・B型及び事業所内保育事業における実習2単位、保育実習Ⅱ(選択必修科目)及び保育実習指導Ⅱ(選択必修科目)を履修したものとすることができる。

保育実習Ⅱの目標（保育所）

1. 保育所の役割や機能について具体的な実践を通して理解を深める。
2. 子どもの観察や関わりの視点を明確にすることを通して保育の理解を深める。
3. 既習の教科や保育実習の経験を踏まえ、子どもの保育及び保護者支援について総合的に学ぶ。
4. 保育の計画、実践、観察、記録及び自己評価等について実際に取組み、理解を深める。
5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。
6. 保育士としての自己の課題を明確化する。

保育実習Ⅲの目標（児童福祉施設）

1. 児童福祉施設等（保育所以外）の役割や機能について実践を通して理解を深める。
2. 家庭と地域の生活実態にふれて、児童家庭福祉及び社会的養護に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を養う。
3. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。
4. 保育士としての自己の課題を明確化する。

(3) ボランティア活動について

保育学科では全学生を対象に、教育実践の一環として、福島学院大学認定こども園、教育・保育施設（幼稚園・保育所、認定こども園、施設等）、地域での教育・保育に関するイベント・研修会などでのボランティア活動を奨励しています。

2年次以降は、各種学外実習を計画しているので、ボランティア活動の時間がなかなか取れません。しかし、1年次は、学外実習はありませんので、土・日曜日、祝日、学生休業期間中に実施することができます。

1年生の皆さんは、次年度以降の学外実習に向けて、子ども理解とコミュニケーション能力の向上に努めるとともに、地域社会にも貢献できる保育者となれるようにボランティア活動へ積極的に参加しましょう。

ボランティア活動の手続きは、大学でボランティア活動にかかる保険に加入していますので、事前に実習指導室へ「ボランティア活動届」を提出してから実施します。終了後には報告書も提出します。

ボランティア活動の概要は以下の通りです。詳細はオリエンテーションやクラスセミナーで説明します。

ボランティア活動（1）

- 内 容 … 福島学院大学認定こども園、教育・保育施設（幼稚園・保育所、認定こども園、施設等）、地域での教育・保育に関するイベント・研修会など
- 対 象 … 1年生
- 期 間 … 1年次5月から翌年の3月まで
- 日数等 … 1日間（8時間）を2回以上 *半日単位も可

ボランティア活動（2）

- 内 容 … 次年度、学外実習を希望している保育所や認定こども園など
- 対 象 … 1年生
- 期 間 … 1年次7月下旬から9月まで
- 日数等 … 1日間（8時間）を1回 *半日単位も可

(4) 実習反省会について

保育学科では、「教育実習」「保育実習Ⅰ」「保育実習Ⅱ」「保育実習Ⅲ」の履修者全員を対象に、実習事前・事後指導の一環として、全学外実習終了後に「実習反省会」を開催しています。

実習反省会の趣旨は以下の通りです。

- 実習を終えた履修生は、事後学習として、実習の反省など、実習で学んだことを振り返り、保育者としての自覚を一層深めることを目的とします。
- これから実習を予定している履修生には、事前学習として、実習に対する理解と今後の学外実習へ向けての意欲高揚を図ることを目的で実施します。

なお、この実習反省会は、教育実習・保育実習等の授業回数に含まれます。単位認定に関わる授業なので、必ず出席しなければなりません。

(5) 実習の履修制限・解除

教育実習・保育実習等については、次のような実習の履修制限があります。

※詳細については、「短期大学部履修規程」第17条（実習の履修制限）をご覧ください。

- ① 幼稚園教諭免許状取得に必須の科目の単位を取得していない者【教育実習のみ】
- ② ピアノ演習Ⅰまたはギター演習のいずれかの単位を取得していない者【教育実習のみ】
- ③ 保育士養成課程「必修科目」の単位を取得していない者【保育実習Ⅰのみ】
- ④ 実習を行う時点におけるGPAが70点未満の者
- ⑤ 基本実習が不合格の者
- ⑥ 実習の事前・事後指導(授業)において、定められた時数の5分の4以上出席していない者
- ⑦ 実習を完遂するのに支障があると学科会議で判断された者
- ⑧ 保育実習Ⅰにおける保育所実習、もしくは児童福祉施設実習が不合格の者

【保育実習Ⅱ・保育実習Ⅲのみ】

上記、履修制限にかかっても、本人の努力次第で解除される場合もありますので、同規程の第18条（履修制限の解除）も併せてご覧ください。

なお、「ピアノ演習Ⅰ」再履修者の「教育実習」時期については以下の通りです。

- ① 前期に成績評価が行われ、単位が認定された者
学科会議の議を経て、各年度で設定している教育実習期間中に教育実習を行うことができます。
- ② 前期に単位を取得できず、後期に同科目を再々履修し、後期に成績評価が行われ、単位が認定された者
学科会議の議を経て、年度内（2月中旬以降）に教育実習を行うことができます。
ただし、年度末にかかるため、教育実習先は大学が指定する実習施設で実施する場合があります。また、実習時期が3月にかかるため、卒業が年度末（3月末日）となります。

11 国内研修旅行・クラスセミナー

保育学科の社会に対する使命は、質の高い保育者を社会に送り出すことです。地域社会に貢献できる優れた保育者は、学問、知識、技術だけの教育では十分とは言えません。社会に参加するために必要な知識の修得、研修の機会も当然重要になります。

そこで、保育学科では通常の授業科目の他に、さまざまな経験や学習をする機会として国内研修旅行、クラスセミナー等を設定しています。

(1) 国内研修旅行について

国内研修旅行は、近い将来、保育者を志す学生の皆さんが社会参加に必要な知識を、体験を通して修得するための機会として設定しています。これは、教育課程による通常の授業を重視しながらも、これと有機的関連を持つよう厳選したものを研修内容として計画しています。具体的には、保育施設や文化施設などの見学を実施します。学生の皆さんは、この機会を積極的に活用し社会的見聞を広めるようにしましょう。

(2) クラスセミナーについて

保育学科では、学年ごとにクラスセミナーを実施しています。その内容は、就職・学内進学に関する説明会や相談会、実習に関する事前・事後指導（授業）、学力向上を目指す講座、さらに、現代社会に対応していくための生活指導などです。学生の皆さんにとって直接的に関わる重要な内容が数多く計画されますので、必ず出席してください。

12 学生支援プログラム

保育学科では、授業とは別に、次のような学生支援プログラムを計画し、希望者を対象に実施しています。詳細については、クラスセミナー等でご案内いたします。

- 「入学前研修会」、「国語力向上特別講座」、「コンピュータ特別講座」、「ピアノレッスン・サポートプログラム」の開催
- 本学福祉学部編入学の学生支援
- クラスアドバイザー（クラス担当教員）による「個人面談」（前期・後期）の実施
- 「学生・ご家族個別面談会」の開催
- 学業、実習、就職への相談・支援

※保育学科では、教育・保育実習に関する相談・支援を行う「実習指導室」と、就職相談・支援を行う「キャリア支援室」をすみれ館2階に設置しています。
学生の皆さんはお気軽にご利用ください。

2019年度入学生用 保育学科教育課程

教養教育科目

| 授 業 科 目 | 単位数 | | 備 考 |
|-----------------|-----|----|--|
| | 必修 | 選択 | |
| 教育方針 本学の教育 | 1 | | |
| 表現力向上分野 | | | |
| 文章表現 | 4 | | |
| 書写演習 | | 2 | 指定者必修 |
| 会話演習 | 2 | | 対話及びコミュニケーションを含む |
| 情報教養分野 | | | |
| 情報機器操作Ⅰ | | 2 | 初級レベル } 入学時のテストにより履修レベル 中級レベル } を決定する。2単位以上必修とするが、初級レベルⅠの履修者は、 中級習熟レベル } 中級レベルⅡまで計4単位以上を必修とする。 |
| 情報機器操作Ⅱ | | 2 | |
| 情報機器操作Ⅲ | | 2 | |
| スマートフォン活用法 | | 1 | |
| スマートフォンのモラルとリスク | | 1 | |
| ウェブ動画制作 | | 2 | |
| 現代教養分野 | | | |
| 生活教養 | 4 | | |
| 音楽演習 | | 2 | |
| 美術演習 | | 2 | |
| 文学演習 | | 2 | |
| 日本国憲法 | | 2 | |
| テレビ報道に見る現代理解 | | 2 | |
| 教養演習Ⅰ | | 2 | |
| 教養演習Ⅱ | | 2 | |
| 国際理解分野 | | | |
| 英会話Ⅰ | | 2 | ベーシックレベル } いずれか2単位必修 アドバンスレベル } |
| 英会話Ⅱ | | 2 | |
| 国際理解演習 | | 2 | |
| 体育分野 | | | |
| 体育講義 | 1 | | |
| 体育実技 | 1 | | |

専門教育科目

| 授 業 科 目 | 単位数 | | 備 考 |
|----------|-----|----|-----|
| | 必修 | 選択 | |
| 教育原理 | 2 | | |
| 保育原理 | 2 | | |
| 保育者論 | 2 | | |
| 教育行政 | | 2 | |
| 社会福祉 | 2 | | |
| 子ども家庭支援論 | | 2 | |
| 子ども家庭福祉 | 2 | | |
| 社会的養護Ⅰ | | 2 | |

| 授 業 科 目 | 単位数 | | 備 考 |
|-------------------------------------|-----|----|----------------|
| | 必修 | 選択 | |
| 教 育 心 理 学 | | 1 | |
| 教 育 心 理 学 | 2 | | |
| 子 ども 家 庭 支 援 の 心 理 学 | | 2 | |
| 臨 床 心 理 学 I | | 2 | |
| 臨 床 心 理 学 II | | 2 | |
| 特 別 支 援 教 育 | | 2 | |
| 子 ども の 保 健 | 2 | | |
| 子 ども の 食 と 栄 養 | | 2 | |
| 保 育 ・ 教 育 課 程 論 | | 2 | |
| 幼 児 と 健 康 | | 1 | この内より4単位必修 |
| 幼 児 と 人 間 関 係 | | 1 | |
| 幼 児 と 環 境 | | 1 | |
| 幼 児 と 言 葉 | | 1 | |
| 幼 児 と 表 現 (造 形) | | 1 | この内より4単位必修 |
| 幼 児 と 表 現 (音 楽) | | 1 | |
| 保 育 内 容 総 論 | | 1 | この内より4単位必修 |
| 保 育 内 容 指 導 法 健 康 | | 1 | |
| 保 育 内 容 指 導 法 人 間 関 係 | | 1 | |
| 保 育 内 容 指 導 法 環 境 | | 1 | |
| 保 育 内 容 指 導 法 言 葉 | | 1 | |
| 保 育 内 容 指 導 法 表 現 | | 1 | |
| 乳 児 保 育 I | 2 | | |
| 乳 児 保 育 II | | 1 | |
| 子 ども の 健 康 と 安 全 | 1 | | |
| 障 害 児 保 育 | 2 | | |
| 社 会 的 養 護 II | | 1 | |
| 子 育 て 支 援 | | 1 | |
| 教 育 方 法 及 び 技 術 | | 2 | |
| 幼 児 理 解 の 理 論 及 び 方 法 | | 2 | |
| 教 育 相 談 の 理 論 及 び 方 法 | | 2 | |
| 保 育 ・ 教 職 実 践 演 習 (幼 稚 園) | | 2 | |
| 教 育 実 習 | | 5 | 事前・事後指導1単位を含む。 |
| 保 育 実 習 指 導 I | | 2 | |
| 保 育 実 習 I | | 4 | |
| 保 育 実 習 指 導 II | | 1 | |
| 保 育 実 習 II | | 2 | |
| 保 育 実 習 指 導 III | | 1 | |
| 保 育 実 習 III | | 2 | |
| ピ ア ノ 演 習 I | | 2 | いずれか2単位必修 |
| ギ タ ー 演 習 | | 2 | |
| ピ ア ノ 演 習 II | | 2 | |
| 創 作 ミ ュ ー ジ カ ル | 2 | | |
| バ リ ダ ン ス レ ッ ス ン と バ リ 島 幼 稚 園 交 流 | | 2 | |
| 特 別 研 究 I | | 2 | |
| 特 別 研 究 II | | 2 | |

※詳細は入学時に配布した「教育課程表」をご覧ください。

2018年度入学生用 保育学科教育課程

教養教育科目

| 授 業 科 目 | 単位数 | | 備 考 |
|-------------------|-----|----|--|
| | 必修 | 選択 | |
| 教育方針 本 学 の 教 育 | 1 | | |
| 表現力向上分野 | | | |
| 国 語 表 現 | 4 | | |
| 書 写 演 習 | | 1 | 指定者必修 |
| 会 話 演 習 | | 1 | 指定者必修 |
| 情報教育分野 | | | |
| 情 報 機 器 操 作 I | | 2 | 初級レベル } 中級レベル } 中級習熟レベル } メディアミックス活用上級レベル |
| 情 報 機 器 操 作 II | | 2 | |
| 情 報 機 器 操 作 III | | 2 | |
| 情 報 機 器 操 作 IV | | 2 | |
| 教養分野 | | | 入学時の能力検定により履修レベルを決定する。2単位以上必修とするが、初級レベル I の履修者は、中級レベル II まで計 4 単位以上を必修とする。 |
| 生 活 教 養 | 4 | | |
| 生 活 と 安 全 | | 2 | |
| 音 楽 演 習 | | 2 | |
| 美 術 演 習 | | 2 | |
| 文 学 演 習 | | 2 | |
| 食 彩 演 習 | | 1 | |
| 日 本 国 憲 法 | | 2 | |
| 女 性 の 保 健 | | 2 | |
| 国際理解分野 | | | |
| 英 会 話 I | | 2 | ベーシックレベル } アドバンスレベル } いずれか 2 単位必修 |
| 英 会 話 II | | 2 | |
| 国 際 理 解 論 | 2 | | |
| 国 際 理 解 演 習 | | 2 | |
| 体育分野 | | | |
| 体 育 講 義 | 1 | | |
| 体 育 実 技 I | 1 | | |
| 体 育 実 技 II | | 1 | |

専門教育科目

| 授 業 科 目 | 単位数 | | 備 考 |
|-------------|-----|----|-----|
| | 必修 | 選択 | |
| 保 育 者 論 | 2 | | |
| 社 会 福 祉 | 2 | | |
| 相 談 援 助 | | 1 | |
| 児 童 家 庭 福 祉 | 2 | | |
| 教 育 原 理 | 2 | | |
| 保 育 原 理 | 2 | | |
| 社 会 的 養 護 | | 2 | |
| 教 育 行 政 | | 2 | |

| 授 業 科 目 | 単位数 | | 備 考 |
|------------------------------------|-----|----|---------------|
| | 必修 | 選択 | |
| 教 育 心 理 学 | | 1 | |
| 発 達 心 理 学 | 2 | | |
| 発 達 心 理 学 II | | 2 | |
| 臨 床 心 理 学 | | 2 | |
| 臨 床 心 理 学 II | | 2 | |
| 子 ど も の 保 健 | 4 | | |
| 子 ど も の 保 健 II | 1 | | |
| 子 ど も の 食 と 栄 養 | | 2 | |
| 家 庭 支 援 論 | | 2 | |
| 保 育 ・ 教 育 課 程 論 | | 2 | |
| 保 育 内 容 総 論 | | 1 | この内より4単位必修 |
| 保 育 内 容 指 導 法 | | | |
| (健 康) | | 1 | |
| (人 間 関 係) | | 1 | |
| (環 境) | | 1 | |
| (言 葉) | | 1 | |
| (表 現) | | 1 | |
| 教 育 方 法 及 び 技 術 | | 2 | |
| 教 育 相 談 | | 2 | |
| 保 育 ・ 教 職 実 践 演 習 (幼 稚 園) | | 2 | |
| 社 会 的 養 護 内 容 | | 1 | |
| 保 育 相 談 支 援 | | 1 | |
| 乳 児 保 育 | 2 | | |
| 障 害 児 保 育 | 2 | | |
| 幼 児 音 楽 (子 ど も の う た) | 2 | | |
| 幼 児 音 楽 (子 ど も の う た) II | | 2 | いずれか2単位必修 |
| ピ ア ノ 演 習 | | 2 | |
| ギ タ ー 演 習 | | 2 | |
| ピ ア ノ 演 習 II | | 2 | |
| 図 画 工 作 | 2 | | |
| 幼 児 体 育 | 2 | | |
| 国 語 | | 2 | |
| 算 数 | | 2 | |
| 創 作 ミ ュ ー ジ カ ル | 2 | | |
| パ リ ダ ンス レ ッ ス ン と バ リ 島 幼 稚 園 交 流 | | 2 | |
| 特 別 研 究 | | 2 | |
| 特 別 研 究 II | | 2 | |
| 教 育 実 習 | | 5 | 事前・事後指導1単位を含む |
| 保 育 実 習 指 導 | | 2 | |
| 保 育 実 習 | | 4 | |
| 保 育 実 習 指 導 II | | 1 | |
| 保 育 実 習 II | | 2 | |
| 保 育 実 習 指 導 III | | 1 | |
| 保 育 実 習 III | | 2 | |

※詳細は入学時に配布した「教育課程表」をご覧ください。

■ 2019年度「保育学科」カリキュラムツリー

保育学科の教育目標 … 多様な保育ニーズに対応

| | |
|----|---|
| 項目 | [1] 「幼稚園教諭二種免許状」と「保育士資格」の両方を在学中に取得 → 地域社会や家庭など様々な保育ニーズに対応し、保育者として活躍できる教育・保育の理論と実践を修得 |
|----|---|

↑

| | | | | | |
|---------|----------------|----------------|--------------------|-------------------------------------|------------|
| 科目名 | 専門教育科目 | | | | |
| 幼稚園教諭二種 | 教育の基礎的理解に関する科目 | | 領域及び保育内容の指導法に関する科目 | 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 | 教育実践に関する科目 |
| 保育士 | 保育の本質・目的に関する科目 | 保育の対象の理解に関する科目 | 保育の内容・方法に関する科目 | | 総合演習 |

↑

↑

↑

↑

↑

| | | | | | |
|----|----------|----------------|--------------|----------------|----------------|
| 2年 | 教育原理 | 教育心理学 | 幼児と環境 | 教育方法及び技術(幼) | 保育・教職実践演習(幼稚園) |
| | 教育行政 | 子ども家庭支援の心理学 | 幼児と言葉 | 教育相談の理解及び方法(幼) | |
| | 子ども家庭支援論 | 臨床心理学Ⅰ | 保育内容指導法 健康 | | |
| | | 臨床心理学Ⅱ | 保育内容指導法 人間関係 | | |
| | | 特別支援教育 | 乳児保育Ⅱ(保) | | |
| | | 子どもの食と栄養 | 子どもの健康と安全(保) | | |
| | | 保育・教育課程論(幼) | 保育・教育課程論(保) | | |
| | | | 障害児保育(保) | | |
| | | | 社会的養護Ⅱ(保) | | |
| | | | 子育て支援(保) | | |
| | | | 教育方法及び技術(保) | | |
| | | 教育相談の理解及び方法(保) | | | |
| 1年 | 保育原理 | 発達心理学 | 幼児と健康 | 幼児理解の理論及び方法(幼) | |
| | 保育者論 | 子どもの保健 | 幼児と人間関係 | | |
| | 社会福祉 | 幼児理解の理論及び方法(保) | 幼児と表現(造形) | | |
| | 子ども家庭福祉 | | 幼児と表現(音楽) | | |
| | 社会的養護Ⅰ | | 保育内容総論 | | |
| | | | 保育内容指導法 環境 | | |
| | | | 保育内容指導法 言葉 | | |
| | | | 保育内容指導法 表現 | | |
| | | | 乳児保育Ⅰ(保) | | |
| | | | ピアノ演習Ⅰ(保) | | |
| | | ギター演習(保) | | | |

できる教養と専門的な知識・技術を持った人材を育成

[2] 実習指導、教育・保育実習を通して、発達上の諸課題や子どもの生活行動を正しく把握し、保育者に必要な知識、技術、態度を修得

[3] 保育者として望まれる教養と諸資質(明朗、思慮深さ、思いやり、使命感、責任感、研究意欲、協調性など)を教養教育科目全般を通して学び修得



| | | | |
|---------|--------------------|------|--------|
| 【学外実習】 | | | 教養教育科目 |
| 本学独自の科目 | 教育実践に関する科目 教育実習 | 保育実習 | |



| | | | | |
|-----------------------------------|--------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| ピアノ演習Ⅱ | 教育実習 (1～2年継続科目) | 保育実習指導Ⅰ (1～2年継続科目) | ウェブ動画制作 | |
| 創作ミュージカル | | 保育実習指導Ⅱ | 日本国憲法 | |
| パリダンスレッスンとバリ島幼稚園交流 (1・2年生共通科目) | | 保育実習指導Ⅲ | テレビ報道に見る現代理解 | |
| | | 保育実習Ⅰ | 教養演習Ⅱ | |
| | | 保育実習Ⅱ | 英会話Ⅰ(ベーシックレベル) | |
| | | 保育実習Ⅲ | 英会話Ⅱ(アドバンスレベル) | |
| | | | 国際理解演習 (1・2年生共通科目) | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| ピアノ演習Ⅰ(幼) | 教育実習 (1～2年継続科目) | 保育実習指導Ⅰ (1～2年継続科目) | 本学の教育 | 生活教養 |
| ギター演習(幼) | | | 文章表現 | 音楽演習 |
| パリダンスレッスンとバリ島幼稚園交流 (1・2年生共通科目) | | | 書写演習 | 美術演習 |
| 特別研究Ⅰ | | | 会話演習 | 文学演習 |
| 特別研究Ⅱ | | | 情報機器操作Ⅰ(初級) | 教養演習Ⅰ |
| | | | 情報機器操作Ⅱ(中級) | 国際理解演習 (1・2年生共通科目) |
| | | | 情報機器操作Ⅲ(中級習熟) | 体育講義 |
| | | | スマートフォン活用法 | 体育実技 |
| | | | スマートフォンのモラルとリスク | |
| | | | | |
| | | | | |

■ 2018年度「保育学科」カリキュラムツリー

保育学科の教育目標 … 多様な保育ニーズに

| | |
|----|------------------------------------|
| 項目 | [1] 「幼稚園教諭二種免許状」と「保育士資格」の両方を在学中に取得 |
|----|------------------------------------|



| | | | | | |
|---------|---------------|----------|---------------------------------|------|----------|
| 科目名 | 専門教育科目 | | | | |
| 幼稚園教諭二種 | 教職の意義／教育の基礎理論 | | 教育課程および指導法／ 生徒指導・教育相談及び進路指導等 | 教職実践 | 教科に関する科目 |
| 保育士 | 保育の本質・目的 | 保育の対象の理解 | 保育の内容・方法 | 総合演習 | 保育の表現技術 |



| | | | | | |
|--------|--------|---------------|-------------|----------------|--------|
| 2年 | | | 保育・教育課程論 | | |
| | | 教育行政 | 保育内容指導法(健康) | | |
| | | 教育心理学 | 保育内容指導法(言葉) | | |
| | | 発達心理学Ⅱ | 教育方法及び技術 | | |
| | | 臨床心理学 | 教育相談 | | |
| | | 臨床心理学Ⅱ | 社会的養護内容 | | 幼児音楽Ⅱ |
| | | 子ども保健Ⅱ | 保育相談支援 | | ピアノ演習Ⅱ |
| | 相談援助 | 子どもの食と栄養 | 乳児保育 | | 国語 |
| | 教育原理 | 家庭支援論 | 障害児保育 | 保育・教職実践演習(幼稚園) | 算数 |
| 1年 | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | 保育者論 | | | | 幼児音楽 |
| 社会福祉 | | 保育内容総論 | | ピアノ演習 | |
| 児童家庭福祉 | | 保育内容指導法(人間関係) | | ギター演習 | |
| 教育原理 | 発達心理学 | 保育内容指導法(環境) | | 図画工作 | |
| 社会的養護 | 子どもの保健 | 保育内容指導法(表現) | | 幼児体育 | |

福島学院大学短期大学部学長賞授与規程

(目的)

第1条 この規程は学則第52条の規定による学長褒賞の実施について定めることを目的とします。

(褒賞の実施)

第2条 褒賞は卒業時に行います。ただし、必要に応じ適時とすることがあります。

(褒賞者の選考および決定)

第3条 褒賞者の選考は、第4条の規定に該当し、各学科長・専攻科長が学科会議の議を経て推薦する学生について、教授会において審査し、学長が決定します。

(褒賞者選考の基準)

第4条 選考は学則第52条第2項の各号に沿い、次の各号(基準)の2以上に該当する者を対象として行います。

1. 学業成績が優良で、人格に優れている者

学業成績で平均点88点以上の者、またはA評価が40科目以上でC評価がない者で、人格に優れ、他の模範となる者

2. 学外実習において、特に高い成績評価を得た者

保育学科にあっては、教育実習、保育実習、保育実習Ⅱまたは保育実習Ⅲの学外実習において、履修した3種実習科目の平均点が90点以上を得た者

3. 学生の課外活動もしくは学内の自主活動において特に優れた実績をあげた者

学生会、学科学友会、クラブ等の役員として職務に精励し、顕著な実績をあげ、本学の充実発展にも貢献した者

4. 学外活動もしくはボランティア活動において特に優れた実績をあげた者

(1) 地方または全国的規模で行われた権威ある展覧会、コンクール、体育大会競技会等において入賞(順位の定めのある場合は3位以内)もしくは国際的な大会等に日本代表として出場、出展した者

(2) 社会的貢献活動において顕著な業績をあげ、本学の名誉の高揚に貢献した者

5. その他学生の模範となる顕著な行為のあった者

善行、人命救助、奉仕の活動、発明発見等において顕著な行為のあった者

2 前項各号において、顕著に優れた者は、該当基準を1とすることができます。

(褒賞の重複)

第5条 学長賞と学科長賞については、学長賞を優先し、重複を避けて褒賞するものとします。

(褒賞の方法)

第6条 褒賞は、表彰状、記念品等によって行います。

附 則

1. この規程は、平成30年10月1日から施行します。

2. この規程の所管は教務課とします。

保育学科長賞授与規程

(目的)

第1条 この規程は福島学院大学短期大学部学則第52条第4項の学科長表彰の規定に基づき、保育学科長表彰について定めることを目的とします。

(表彰の実施)

第2条 表彰は卒業時に学長の立会いのもとに、保育学科長がこれを行います。

(表彰者の選考および決定)

第3条 表彰者の選考は、第4条の規定に該当する学生について、保育学科会議で審議し、学長の承認のもとに保育学科長が決定します。

(表彰者選考の基準)

第4条 選考は人格に優れ他の模範となる者で、次の各号のすべてに該当する者を対象として行います。

1. 学業成績が特に優秀な者

成績評定平均点84点以上の者、またはA評価38科目以上でC評価のない者

2. 学外実習において特に優秀な評価を得た者

教育実習、保育実習(保育所・児童福祉施設)、保育実習Ⅱまたは保育実習Ⅲの4種実習のうち、3種実習以上において、80点以上の実習評価を得た者

3. 課外活動(学生会、学科学友会、クラブ、クラス、ボランティア活動等)において、よくその職責もしくは活動を遂行した者

2 前項第1号該当者の中で、成績評定平均点86点以上の者、またはA評価40科目以上を取得した者、もしくは前項第2

号に定める4種実習において平均88点以上の評価を得た者については、その他の各号に該当しない場合でも、表彰選考対象者に加えるものとします。

(表彰の方法)

第5条 表彰は、表彰状、記念品等によって行います。

附 則

1. この規程は、平成30年10月1日から施行します。
2. この規程は保育学科の所管とします。

千葉記念賞授与規程

(目的)

第1条 この規程は、学生部長、保育科（現保育学科）長、秘書科（現情報ビジネス学科）長等を歴任し、本学の発展に大きな功績を残した故千葉恭造副学長（理事）を記念して、千葉記念賞の授与について定めることを目的とします。

(表彰の実施)

第2条 表彰は卒業時に学長立会いのもとに、表彰される学生の所属学科長が行います。

ただし、第4条のうち1年次で評価される場合の学生の表彰は当該学科2年次のオリエンテーション時に学科長が行います。

(表彰者の選考および決定)

第3条 表彰者の選考は、第4条の規定に該当する学生について、各学科会議の議を経て、学長の承認のもとに、各学科長が決定します。

(表彰者選考の基準)

第4条 選考は次の各号に該当する者を対象とします。

1. 教養教育科目「音楽演習」（ポップスの世界）の最終発表会において、最優秀歌唱者またはグループとして選考された者
2. 保育学科「創作ミュージカル」発表会において、最優秀個人賞を受賞した者
3. 保育学科の教育実習、保育実習（保育所・児童福祉施設）、保育実習Ⅱまたは保育実習Ⅲの学外実習において、すべての実習の評価が80点以上を得た者
4. 情報ビジネス学科1年次の成績評定平均点において、最高点を得た者
5. 情報ビジネス学科在学中に秘書検定準1級以上もしくはサービスマン検定1級を取得した者

(表彰の方法)

第5条 表彰は、表彰状、記念品等によって行います。

- 2 表彰の内容については、別に定めます。

附 則

1. この規程は、平成30年10月1日から施行します。
2. この規程の所管は教務課とします。

保育学科履修細則

(目的)

第1条 本細則は短期大学部学則第38条、39条に基づき、保育学科の幼稚園教諭二種免許状、保育士資格取得に係わる指定科目の履修について定めることを目的とします。

(幼稚園教諭二種免許状取得)

第2条 幼稚園教諭二種免許状取得を希望する者は、別表1に定める科目を履修して、所定の単位を取得するものとします。

(保育士資格取得)

第3条 保育士資格取得を希望する者は、別表2に定める科目を履修して、所定の単位を取得するものとします。

(幼稚園教諭二種免許状及び保育士資格の取得)

第4条 幼稚園教諭二種免許状と保育士資格の両方の取得を希望する者は、別表3に定める科目を履修して、所定の単位を取得するものとします。

なお、幼保連携型認定こども園の保育教諭として従事する場合は、幼稚園教諭二種免許状と保育士資格を併有する必要があります。

附則

1. この細則は、平成31年4月1日から施行します。
2. この細則は保育学科の所管とします。

別表1 幼稚園教諭二種免許状取得 科目

| 科目区分 | 授業科目の名称 | 配当年次 | 単位数 | | 授業形態 | 備考 |
|----------------|------------------|------|-----|----|---------------|----------------------------------|
| | | | 必修 | 選択 | | |
| 教養教育科目 | 情報機器操作Ⅰ(初級レベル) | 1年 | 2 | 2 | 演習 | レベルに応じ2単位以上必修 ただし、Ⅰの履修者はⅡまで必修 |
| | 情報機器操作Ⅱ(中級レベル) | 1年 | | 2 | 演習 | |
| | 情報機器操作Ⅲ(中級習熟レベル) | 1年 | | 2 | 演習 | |
| | 日本国憲法 | 2年 | 2 | | 講義 | |
| | 英会話Ⅰ(ベーシックレベル) | 2年 | 2 | 2 | 演習 | レベルに応じいずれか2単位必修□ |
| | 英会話Ⅱ(アドバンスレベル) | 2年 | | 2 | 演習 | |
| | 体育講義 | 1年 | 1 | | 講義 | |
| | 体育実技 | 1年 | 1 | | 実技 | |
| 専門教育科目 | 教育原理 | 2年 | 2 | | 講義 | |
| | 保育原理 | 1年 | 2 | | 講義 | |
| | 保育者論 | 1年 | 2 | | 講義 | |
| | 教育行政 | 2年 | 2 | | 講義 | |
| | 教育心理学 | 2年 | 1 | | 演習 | |
| | 発達心理学 | 1年 | 2 | | 講義 | |
| | 特別支援教育 | 2年 | 2 | | 講義 | |
| | 保育・教育課程論 | 2年 | 2 | | 講義 | |
| | 幼児と健康 | 1年 | 1 | | 演習 | |
| | 幼児と人間関係 | 1年 | 1 | | 演習 | |
| | 幼児と環境 | 2年 | 1 | | 演習 | |
| | 幼児と言葉 | 2年 | 1 | | 演習 | |
| | 幼児と表現(造形) | 1年 | 1 | | 演習 | |
| | 幼児と表現(音楽) | 1年 | 1 | | 演習 | |
| | 保育内容総論 | 1年 | 1 | | 演習 | |
| | 保育内容指導法 健康 | 2年 | 1 | | 演習 | |
| | 保育内容指導法 人間関係 | 2年 | 1 | | 演習 | |
| | 保育内容指導法 環境 | 1年 | 1 | | 演習 | |
| | 保育内容指導法 言葉 | 1年 | 1 | | 演習 | |
| | 保育内容指導法 表現 | 1年 | 1 | | 演習 | |
| | 教育方法及び技術 | 2年 | 2 | | 演習 | |
| 幼児理解の理論及び方法 | 1年 | 2 | | 演習 | | |
| 教育相談の理論及び方法 | 2年 | 2 | | 演習 | | |
| 教育実習 | 1・2年 | 5 | | 実習 | 事前・事後指導1単位を含む | |
| 保育・教職実践演習(幼稚園) | 2年 | 2 | | 演習 | | |

別表2 保育士資格取得 科目

| 科目区分 | 授業科目の名称 | 配当年次 | 単位数 | | 授業形態 | 備考 |
|-----------|------------------|------|-----|----|----------|----------------------------------|
| | | | 必修 | 選択 | | |
| 教養教育科目 | 本学の教育 | 1年 | 1 | | 講義 | |
| | 文章表現 | 1年 | 4 | | 講義 演習 | |
| | 会話演習 | 1年 | 2 | | 演習 | 対話及びプレゼンテーションを含む |
| | 情報機器操作Ⅰ(初級レベル) | 1年 | 2 | 2 | 演習 | レベルに応じ2単位以上必修 ただし、Ⅰの履修者はⅡまで必修 |
| | 情報機器操作Ⅱ(中級レベル) | 1年 | | 2 | 演習 | |
| | 情報機器操作Ⅲ(中級習熟レベル) | 1年 | | 2 | 演習 | |
| | 生活教養 | 1年 | 4 | | 講義 演習 | |
| | 英会話Ⅰ(ベーシックレベル) | 2年 | 2 | 2 | 演習 | レベルに応じいずれか2単位必修□ |
| | 英会話Ⅱ(アドバンスレベル) | 2年 | | 2 | 演習 | |
| | 体育講義 | 1年 | 1 | | 講義 | |
| 体育実技 | 1年 | 1 | | 実技 | | |
| 専門教育科目 | 教育原理 | 2年 | 2 | | 講義 | |
| | 保育原理 | 1年 | 2 | | 講義 | |
| | 保育者論 | 1年 | 2 | | 講義 | |
| | 社会福祉 | 1年 | 2 | | 講義 | |
| | 子ども家庭支援論 | 2年 | 2 | | 講義 | |
| | 子ども家庭福祉 | 1年 | 2 | | 講義 | |
| | 社会的養護Ⅰ | 1年 | 2 | | 講義 | |
| | 発達心理学 | 1年 | 2 | | 講義 | |
| | 子ども家庭支援の心理学 | 2年 | 2 | | 講義 | |
| | 子どもの保健 | 1年 | 2 | | 講義 | |
| | 子どもの食と栄養 | 2年 | 2 | | 演習 | |
| | 保育・教育課程論 | 2年 | 2 | | 講義 | |
| | 幼児と健康 | 1年 | 1 | | 演習 | |
| | 幼児と人間関係 | 1年 | 1 | | 演習 | |
| | 幼児と環境 | 2年 | 1 | | 演習 | |
| | 幼児と言葉 | 2年 | 1 | | 演習 | |
| 幼児と表現(造形) | 1年 | 1 | | 演習 | | |
| 幼児と表現(音楽) | 1年 | 1 | | 演習 | | |

| 科目 区分 | 授業科目の名称 | 配当年次 | 単位数 | | 授業 形態 | 備 考 | |
|----------------------------|----------------|------|-----|----|-----------|-----------|--------------|
| | | | 必修 | 選択 | | | |
| 専 門 教 育 科 目 | 保育内容総論 | 1年 | 1 | | 演習 | | |
| | 保育内容指導法 健康 | 2年 | 1 | | 演習 | | |
| | 保育内容指導法 人間関係 | 2年 | 1 | | 演習 | | |
| | 保育内容指導法 環境 | 1年 | 1 | | 演習 | | |
| | 保育内容指導法 言葉 | 1年 | 1 | | 演習 | | |
| | 保育内容指導法 表現 | 1年 | 1 | | 演習 | | |
| | 乳児保育Ⅰ | 1年 | 2 | | 講義 | | |
| | 乳児保育Ⅱ | 2年 | 1 | | 演習 | | |
| | 子どもの健康と安全 | 2年 | 1 | | 演習 | | |
| | 障害児保育 | 1年 | 2 | | 演習 | | |
| | 社会的養護Ⅱ | 2年 | 1 | | 演習 | | |
| | 子育て支援 | 2年 | 1 | | 演習 | | |
| | 幼児理解の理論及び方法 | 1年 | 2 | | 演習 | | |
| | 保育・教職実践演習(幼稚園) | 2年 | 2 | | 演習 | | |
| | 保育実習指導Ⅰ | 1・2年 | 2 | | 演習 | | |
| | 保育実習Ⅰ | 2年 | 4 | | 実習 | | |
| | 保育実習指導Ⅱ | 2年 | 3 | 1 | 演習 | いずれか3単位必修 | |
| | 保育実習Ⅱ | 2年 | | 2 | 実習 | | |
| | 保育実習指導Ⅲ | 2年 | 3 | 1 | 演習 | | |
| | 保育実習Ⅲ | 2年 | | 2 | 実習 | | |
| | 教育行政 | 2年 | 6 | 2 | 講義 | | この中から6単位以上必修 |
| | 教育心理学 | 2年 | | 1 | 演習 | | |
| | 臨床心理学Ⅰ | 2年 | | 2 | 講義 | | |
| | 臨床心理学Ⅱ | 2年 | | 2 | 講義 | | |
| | 特別支援教育 | 2年 | | 2 | 講義 | | |
| | 教育方法及び技術 | 2年 | | 2 | 演習 | | |
| | 教育相談の理論及び方法 | 2年 | | 2 | 演習 | | |
| ピアノ演習Ⅰ | 1年 | 2 | | 演習 | いずれか2単位必修 | | |
| ギター演習 | 1年 | 2 | | 演習 | | | |
| ピアノ演習Ⅱ | 1年 | 2 | | 演習 | | | |
| 創作ミュージカル | 2年 | 2 | | 演習 | | | |
| 特別研究Ⅰ | 1年 | | 2 | 演習 | | | |

別表3 幼稚園教諭二種免許状・保育士資格取得 科目

| 科目区分 | 授業科目の名称 | 配当年次 | 単位数 | | 授業形態 | 備考 |
|---------|------------------|------|-----|----|----------|----------------------------------|
| | | | 必修 | 選択 | | |
| 教養教育科目 | 本学の教育 | 1年 | 1 | | 講義 | |
| | 文章表現 | 1年 | 4 | | 講義 演習 | |
| | 会話演習 | 1年 | 2 | | 演習 | 対話及びプレゼンテーションを含む |
| | 情報機器操作Ⅰ(初級レベル) | 1年 | 2 | 2 | 演習 | レベルに応じ2単位以上必修 ただし、Ⅰの履修者はⅡまで必修 |
| | 情報機器操作Ⅱ(中級レベル) | 1年 | | 2 | 演習 | |
| | 情報機器操作Ⅲ(中級習熟レベル) | 1年 | | 2 | 演習 | |
| | 生活教養 | 1年 | 4 | | 講義 演習 | |
| | 日本国憲法 | 2年 | 2 | | 講義 | |
| | 英会話Ⅰ(ベーシックレベル) | 2年 | 2 | 2 | 演習 | レベルに応じいずれか2単位必修□ |
| | 英会話Ⅱ(アドバンスレベル) | 2年 | | 2 | 演習 | |
| | 体育講義 | 1年 | 1 | | 講義 | |
| | 体育実技 | 1年 | 1 | | 実技 | |
| 専門教育科目 | 教育原理 | 2年 | 2 | | 講義 | |
| | 保育原理 | 1年 | 2 | | 講義 | |
| | 保育者論 | 1年 | 2 | | 講義 | |
| | 教育行政 | 2年 | 2 | | 講義 | |
| | 社会福祉 | 1年 | 2 | | 講義 | |
| | 子ども家庭支援論 | 2年 | 2 | | 講義 | |
| | 子ども家庭福祉 | 1年 | 2 | | 講義 | |
| | 社会的養護Ⅰ | 1年 | 2 | | 講義 | |
| | 教育心理学 | 2年 | 1 | | 演習 | |
| | 発達心理学 | 1年 | 2 | | 講義 | |
| | 子ども家庭支援の心理学 | 2年 | 2 | | 講義 | |
| | 臨床心理学Ⅰ | 2年 | | 2 | 講義 | |
| | 臨床心理学Ⅱ | 2年 | | 2 | 講義 | |
| | 特別支援教育 | 2年 | 2 | | 講義 | |
| | 子どもの保健 | 1年 | 2 | | 講義 | |
| | 子どもの食と栄養 | 2年 | 2 | | 演習 | |
| | 保育・教育課程論 | 2年 | 2 | | 講義 | |
| | 幼児と健康 | 1年 | 1 | | 演習 | |
| 幼児と人間関係 | 1年 | 1 | | 演習 | | |

| 科目区分 | 授業科目の名称 | 配当年次 | 単位数 | | 授業形態 | 備考 |
|----------|----------------|------|-----|----|------|---------------|
| | | | 必修 | 選択 | | |
| 専門教育科目 | 幼児と環境 | 2年 | 1 | | 演習 | |
| | 幼児と言葉 | 2年 | 1 | | 演習 | |
| | 幼児と表現(造形) | 1年 | 1 | | 演習 | |
| | 幼児と表現(音楽) | 1年 | 1 | | 演習 | |
| | 保育内容総論 | 1年 | 1 | | 演習 | |
| | 保育内容指導法 健康 | 2年 | 1 | | 演習 | |
| | 保育内容指導法 人間関係 | 2年 | 1 | | 演習 | |
| | 保育内容指導法 環境 | 1年 | 1 | | 演習 | |
| | 保育内容指導法 言葉 | 1年 | 1 | | 演習 | |
| | 保育内容指導法 表現 | 1年 | 1 | | 演習 | |
| | 乳児保育Ⅰ | 1年 | 2 | | 講義 | |
| | 乳児保育Ⅱ | 2年 | 1 | | 演習 | |
| | 子どもの健康と安全 | 2年 | 1 | | 演習 | |
| | 障害児保育 | 1年 | 2 | | 演習 | |
| | 社会的養護Ⅱ | 2年 | 1 | | 演習 | |
| | 子育て支援 | 2年 | 1 | | 演習 | |
| | 教育方法及び技術 | 2年 | 2 | | 演習 | |
| | 幼児理解の理論及び方法 | 1年 | 2 | | 演習 | |
| | 教育相談の理論及び方法 | 2年 | 2 | | 演習 | |
| | 教育実習 | 1・2年 | 5 | | 実習 | 事前・事後指導1単位を含む |
| | 保育・教職実践演習(幼稚園) | 2年 | 2 | | 演習 | |
| | 保育実習指導Ⅰ | 1・2年 | 2 | | 演習 | |
| | 保育実習Ⅰ | 2年 | 4 | | 実習 | |
| | 保育実習指導Ⅱ | 2年 | 3 | 1 | 演習 | いずれか3単位保育士必修 |
| | 保育実習Ⅱ | 2年 | | 2 | 実習 | |
| | 保育実習指導Ⅲ | 2年 | 3 | 1 | 演習 | |
| | 保育実習Ⅲ | 2年 | | 2 | 実習 | |
| | ピアノ演習Ⅰ | 1年 | | 2 | 演習 | |
| ギター演習 | 1年 | | 2 | 演習 | | |
| ピアノ演習Ⅱ | 1年 | | 2 | 演習 | | |
| 創作ミュージカル | 2年 | 2 | | 演習 | | |
| 特別研究Ⅰ | 1年 | | 2 | 演習 | | |